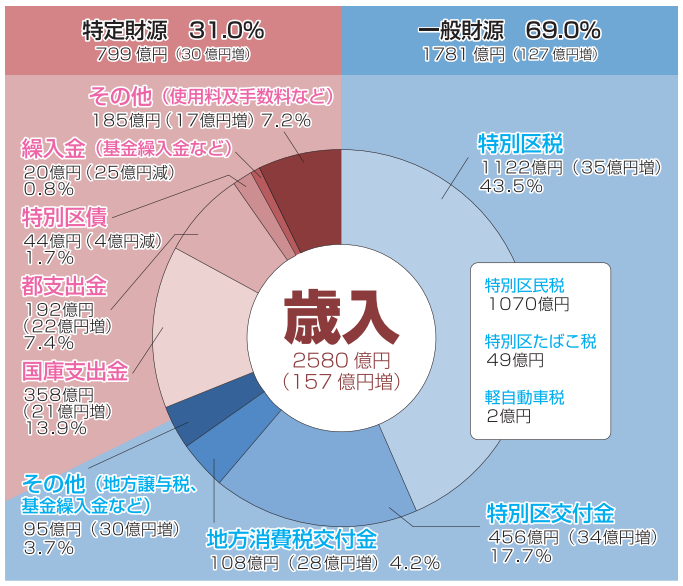
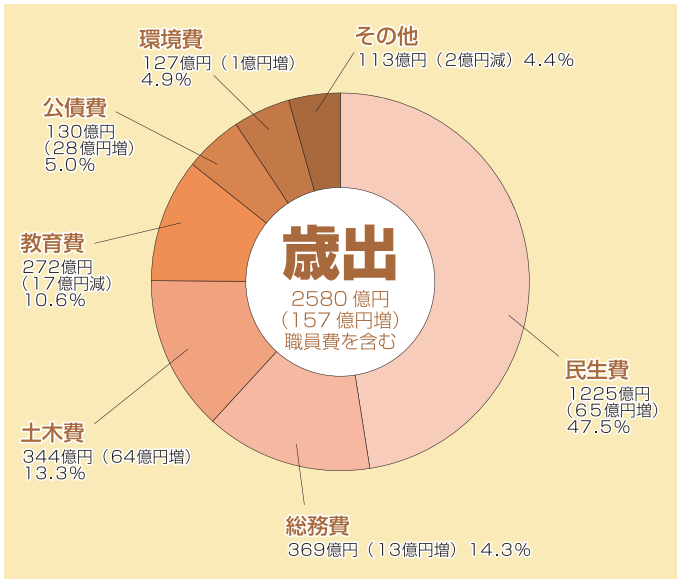
平成２６年度 世田谷区予算が決まりました

予算とは、あらかじめ計算するという意味です。
「平成２６年度世田谷区予算」は、２６年４月から２７年３月まで１年間の世田谷区の福祉や教育、防災対策など全ての区民サービスを支える収入と支出をとりまとめて、計算したものです。家計に例えると１年間に使うお財布になります。





国民健康保険事業会計	病気のときの健康保険の医療費	820億円
後期高齢者医療会計	７５歳以上の高齢者の方の医療費	185億円
介護保険事業会計	特別老人ホーム、デイサービスなど介護保険や介護予防	560億円
中学校給食費会計	区立中学の給食費	１億4000万円

ほかに使い道が特定されたお財布（特別会計）は左の表の通りです。

区の予算を１万円にたとえると・・・？

第１回定例会（２月２４日～３月２７日）の予算特別委員会では各領域での審議が行われ、原案通り可決成立しました。
２６年度の予算額は２５８０億円（一般会計）です。これの使い道を１万円にたとえてご紹介しますと ...

区のお知らせ４/１５号より

その他 591 円	環境費 562 円	公債費 637 円	土木費 923 円	教育費 1361 円	総務比 1695 円	民生費 4231 円
健康づくり産業振興等に	環境対策や清掃・リサイクル関連事業に	特別区債（借入金）の返済に	道路・公園の維持 建物の耐震化 都市整備関連に	小・中学校の教材 校舎の整備 図書館の運営等に	災害対策、文化事業 スポーツ振興や区民利用 施設の維持運営等に	高齢者・障害者・子育て支援や生活保護等の福祉事業に

民生費が占める割合もさることながら、健康保険と介護保険にかかる予算の大きさにも驚かされます。健康で介護のお世話にならない、そんな将来を目指したいものです。
予算は私たちの暮らしを支える大切なお金です。しっかりとチェックし、これからもお知らせしてまいります。



世田谷区議会議員

和田ひでとし通信

第九号

ごあいさつ

平成二十六年度、世田谷区にとって大きな節目の年度がスタートしました。基本計画・第二次教育ビジョン等、新たな目標をかかげてこれからの世田谷区を目指していきます。それぞれの地域・地区での課題をしっかり検証しながら、未来へ進んでいかなければなりません。
和田ひでとしは区議会議員として一期目の最後の一年となりました。これからも皆様と新たな「まちの絆づくり」を目指してまいります。

2014年5月 発行
世田谷区議会議員　和田 秀壽
〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 1-40-2
電話 03-3720-3542
FAX 03-3720-6928

外環道東名ＪＣＴ工事現場視察



２月10日、外環道東名ジャンクション立て抗掘削現場を私が所属する「公共交通機関対策等特別委員会」で視察してきました。国の一大事業ですが、このまま完成してしまうと世田谷区内の環状８号線を中心とした地域に大きな影響が予想されます。これからも引き続き東名以南の着工を国に要望してまいります。

第４回 後援会初詣・新年会



２月２日、「和田ひでとし後援会」の初詣・新年会が今年も行われ、新しい年のスタートをみなさまに盛り上げていただきました。ご期待に応えられるようがんばります。

新春奥沢地区まつり



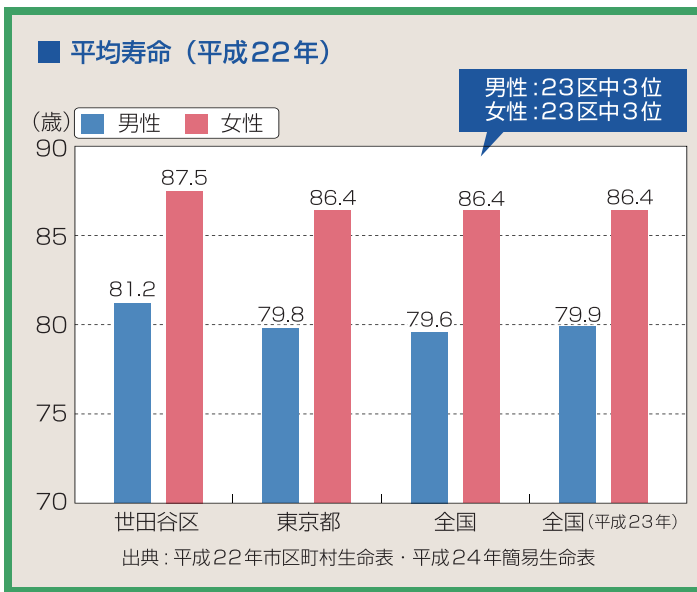
１月１９日に開催された第３２回新春奥沢地区まつり、今回は東玉川小学校が会場です。好天に恵まれ、予定通りの地区の最大イベントが出来ました。来場者はおよそ６千人、私は設営・撤収担当として、また小学生マラソンのコース担当として、お天気には感謝感謝です。
このおまつりは地区の様々な団体同士の<マッチング>いわゆる絆づくりの重要な行事となっています。課題はいくつかありますが、特に、年々増え続ける自転車の駐輪対策はしっかりと考える必要があると思います。

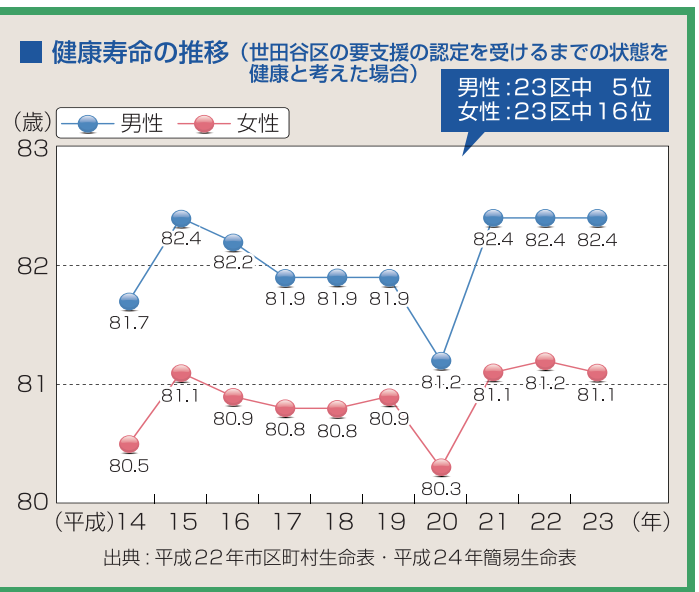
介護予防の取り組み

「高齢者が住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられる地域社会の実現」

（第５期世田谷区保健福祉計画・介護保険事業計画）基本理念より

これからの高齢化時代を、いつまでも元気で暮らし続けるために、介護予防がとても重要といわれています。奥沢地区では地区社会福祉協議会・あんしんすこやかセンター・町会・商店会、そして地元の医療機関が連携してチームを編成して介護予防に取り組んでいます。高齢者に介護予防を定着させるには・・・**一人で行ける徒歩圏内の・毎週同じ場所で・毎週同じ時間に**体操や栄養指導、口腔ケアなどを行うことが大切であるそうです。課題は場所の確保です。学校の一般開放や公共施設の利用についてなど、私も自分の事としてみなさんと一緒に考えてまいります。





いつまでも元気に暮らせるために、生活習慣病対策や介護予防の取組みが重要であり、一層進める必要があります（世田谷区基本計画より）

今後の予定

※詳しくは区のお知らせ
または和田ひでとし迄

世田谷区議会第２回定例会
６月１０日～１９日

和田ひでとし区政報告会　第４回「初夏のつどい」
６月２７日 １８時３０分より 玉川区民会館集会室

世田谷区民まつり
８月２日～３日　馬事公苑

インターネットで「和田ひでとし」と検索してください！
和田ひでとし　検索

あなたのご意見をお聞かせください！
info@wadahidetoshi.com

予算特別委員会 企画総務領域
「今後１０年間の財政計画について」

これからの１０年は、人口推計予測で示しているように、子どもの人口の緩やかな増加が平成３５年ごろにとまり、かわって後期高齢者が大きく増加をするということが予想されています。その間の平成３２年にはオリンピック・パラリンピックの東京開催もあり、これからの１０年は区政運営にとって大変重要な１０年であると思います。

こういった状況をふまえ、私は今定例会の一般質問で、この１０年の間に健全で磐石な財政基盤をつくり上げるべきではないかと質問をいたしました。

【和田】人口の推移や景気動向といった時代の変化、加えてオリンピック・パラリンピックの開催が予定されている中、これからの１０年の財政と公共施設整備について伺います。

オリンピック・パラリンピックが開催される前と後で景気の動向が大きく変わることにより、今後予想される急激な財政をめぐる状況の変化に対して、区はどのように乗り切ろうとしているのか伺います。

【財政課長】２７年度以降でございますが、梅ヶ丘病院跡地の施設整備や玉川総合支所の改築など大規模建設工事を予定しております。現段階ではこれらの公共施設の整備計画を維持してまいりたいと考えております。

一方で、委員お話しのとおり、今後、東京オリンピック・パラリンピックに向けた建設需要などを背景に、資材高騰などによるさらなる建設コストの上昇とその後の反動など、経済状況の変動が区財政にとって無視できない状況に至ることも十分に予想されます。

今後、東京オリンピック・パラリンピック後の状況も視野に入れながら、公共施設の整備計画、財政計画の修正の必要性について判断をしてまいりたいと考えております。

これからの１０年を展望すると、梅ヶ丘の保健福祉の拠点整備、玉川総合支所・区民会館の建てかえ、さらに本庁舎の建てかえ等、大きな公共施設整備が次々と控えており、財政計画をよほどしっかりしたものにしていかなければならないと思います。限られた財源の中で公共施設の整備更新のためには、区立小・中学校の適正規模化・適正配置によって生まれる学校跡地などをできるだけ有効活用していくことが必要不可欠と言われています。

そのような状況の中、学校や区民利用施設は教育やコミュニティー活動を支え福祉面での見守りや介護予防のための健康づくりなど、地域活動の重要な場となっています。

【和田】区は学校の適正配置・適正規模化によって生まれる跡地の利用をさらに徹底すべきではないでしょうか。区内にある全ての学校は、言うまでもなく地域の中で子どもたちの教育の場としてかけがえのない資産です。だからこそ地域の大切な宝として、教育の場だけではなく、防災面での重要な施設として、また、公共施設としても地域にとって役立つように有効活用を図っていくべきと考えます。区の見解を伺います。

【政策企画課長】区立の小中学校は、地域コミュニティーの活動拠点や災害時の避難所として重要な施設でございまして、区内では限られた大規模な用地でございます。そのため、その跡地につきましては、引き続き有効に活用していく必要があると認識しております。

活用に当たりましては、公共施設全体をマネジメントするという観点から周辺の公共施設の状況を踏まえ、中長期的な見通しに基づいて複合化や効率のよい設備の導入、そういったものによって財政負担を抑えながら、必要な公共施設の整備を着実に進めてまいります。

新たな基本計画がスタートいたしますこの平成２６年度は大変大きな意味を持った年であると思います。しっかりとした財政計画のもと、公共施設整備に取り組んでいただくことを申し上げておきます。

予算特別委員会 都市整備領域
「踏切の安全対策について」

【和田】踏切の問題は、地元の区民にとっては大変大きな、また身近な問題です。特に目黒線は平成１８年から、大井町線については平成２０年から急行運転が始まり、踏切の安全対策はますます重要なものとなっています。

そこで、踏切における安全対策について、事業者の取り組み状況はその後どのようになっているのか伺います。



非常停止ボタンの看板が大きくなりました（大井町線・等々力駅）

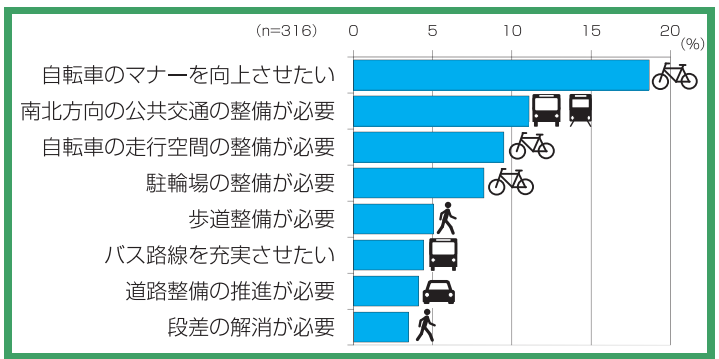
【交通政策課長】踏切における安全対策でございますが、東急電鉄では、区内にある全ての踏切においてくぐり抜けを防止するための遮断ざおに垂れベルト、ＬＥＤ装置の設置、また、接近する列車の運転手に対し踏切内の異常を知らせるとともに、列車を自動的に減速させる非常ボタン、踏切内で立ち往生している自動車などを検知する障害物検知装置などを設置し、さまざまな安全対策をとり行っているところでございます。

昨年１１月に尾山台駅横の踏切において発生しました人身事故を受けまして、踏切内に人や車が残された場合は人命を最優先するため、非常用ボタンを積極的に押していただくよう案内するチラシやポスターを作成し、再発防止に努めているなど、ＰＲ活動を積極的に行っているところでございます。

九品仏駅や等々力駅のように上下線の間に駅舎があると、乗降客は踏切を必ず渡っていかなければなりません。安全対策については、地元の皆さんの意見をしっかりと届けていただきたいと思います。

予算特別委員会 都市整備領域
「公共交通不便地域の解消について」

【和田】平成２６年度末には補助１５４号線がいよいよ開通予定となります。世田谷区では特に南北間の交通アクセスの不便さが大きな課題となっています。玉川地域の区民にとって世田谷線や小田急線、京王線とのアクセスは大変です。そのような中、今回開通します補助１５４線は大きな前進の足がかりとなるのではと期待をしています。等々力～区役所～梅ヶ丘のバス路線を新設することによって南北間の交通の充実を図るべきだとこれまでも提案してきました。区ではこれまでコミュニティーバスを導入するなど南北交通の強化を図ってきたといいますが、等々力～梅ヶ丘間についても南北交通の強化、公共交通不便地域の解消につながるなど効果は非常に高いと考えますが、今後の取り組みについて伺います。



世田谷区に今後求める、交通まちづくりへの自由意見

【交通政策課長】今お話しいただいたように、導入の効果は非常に高いと区としても考えております。今後は、ルートの設定や、先ほどの既存バス路線との調整、実験運行などの実施について協議調整を進め、引き続きバス事業者と連携協働し、南北交通の強化、実現に向け取り組んでまいります。

梅ヶ丘の拠点整備が平成３１年にはできるという予定になっておりますが、このことを踏まえましても、私はこのルートは南北間交通の充実とともに、これからの世田谷区の人口予測などを踏まえた観点からも大変重要であると思います。高齢者がこれからさらにふえていくことを予想しましても、今からでもこれを計画的に進めて、ぜひ実現できるように要望をしておきたいと思います。

予算特別委員会 文教領域
「家庭教育への支援について」

世田谷区の教育は９年教育という大きな特徴の中で、学び舎や地域運営学校の完全実施が導入されました。今回の新教育ビジョンでも、地域との連携はますます重要になっていくことを明記していると思います。

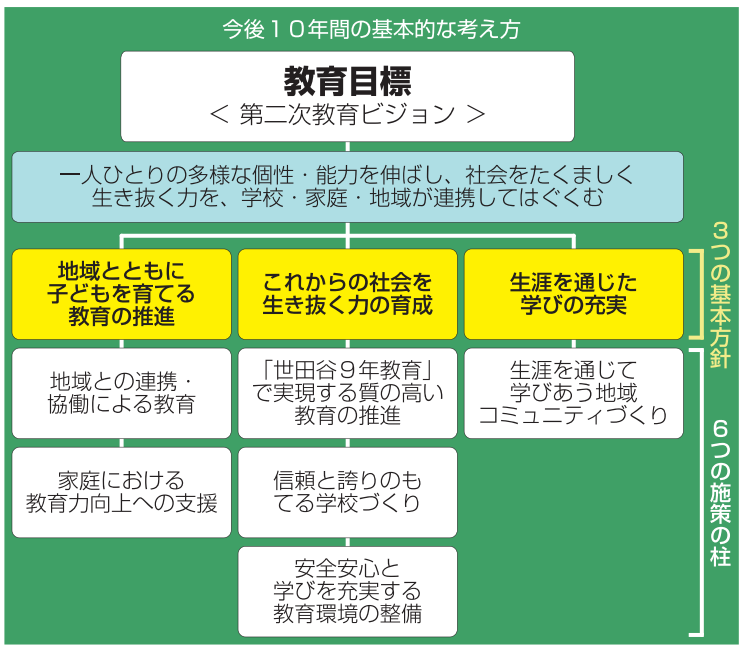
【和田】第２次教育ビジョン第１期行動計画には、「親子の育ちを支える家庭教育への支援」とあります。これは何を言わんとしているのか。また、さらに「親の学びへの支援」ともあります。この「親の学び」とはどういうことなのか。区が考える家庭教育への支援について伺います。

【生涯学習・地域・学校連携課長】第２次教育ビジョンでは、家庭の教育力の向上に向けて、親が自信を持って我が家の家庭教育を実践できるような支援と、社会の一員としての親の意識の向上を目指しまして、親が親として学び育つための支援に取り組んでまいります。

親への支援を通して子どもの育ちを支えるために、家庭教育学級やＰＴＡの研修、青少年委員による地域合同研修会などを活用して、親同士の学び合いや仲間づくりを支援するとともに、父親の家庭教育への参加の促進を図り、学校と地域が連携して行う活動を支援するなど、家庭教育の支援の充実を図ってまいりたいと考えております。

【和田】今回の教育ビジョンでは、学校、家庭、地域の連携を強めると書いてあります。ここでの家庭に求めるというのは何なのか。文部科学省が始めた「早寝早起き朝御飯」が提唱されましたが、本来、家庭教育の中で親が子どもにしつけなければならないことの一つです。そこで、教育委員会の考える家庭の役割とは何か、家庭に何を求めるのか伺います。

【生涯学習・地域・学校連携課長】第２次教育ビジョンでは地域とともに子どもを育てる教育を推進するために、学校、家庭、地域の連携をさらに進めることとしております。今、委員のお話にありましたように健康づくりでありますとか生活習慣、食育という子どもを取り巻く大きな課題について重要であると考えております。



そのため、平成２６年度には、例えば区立幼稚園、小中学校のＰＴＡに委託して実施する家庭教育学級やＰＴＡが主催する研修会などで、区を挙げて取り組むべき大きな課題につきまして共通テーマを設け、全区的な取り組みを働きかけるなどの方法を検討してまいりたいと考えております。

学校や教育委員会が取り組みを進める教育課題につきまして、家庭においても課題を共通なものとして受けとめ、家庭生活の営みや家族間の話題の中で考え実践していただくことで、さらに効果的な取り組みとなるよう工夫してまいりたいと考えております。

今回の新教育ビジョンの中で家庭教育への支援については、教育委員会は一歩踏み込んだのではないかと捉えております。しっかりした取り組みを期待したいと思います。